

## 特別講演(1)

京都帝国大学福岡医科大学から  
九州帝国大学医科大学への道のり

佐藤 裕

九州大学は法令上は東北大学（一九〇七年六月創設）に次いでわが国で四番目に創設された大学であるが、福岡医科大学時代を含めると実質的には三番目の大学と見なしうる（これは九大関係者の共通した認識である）。実際、福岡医科大学設置の勅令が公布された一九〇三年をもつて、九州大学の創設の年とするので今年が創立百周年にあたる。

医事新聞（第六百三十五号）紙上で明治三十六年の記事（明治三十六年四月十日）をみると、福岡医科大学の設置を公布した勅令（第五十四号）を見ることができると、

◎勅令第五十四号

明治三十年勅令第二百九号中左ノ通改正ス

第二条 京都帝国大学ノ分科大学ハ帝国大学令第九条ニ依ラス法科大学第一医科大学第二医科大学及文科大学理工科大学トシ第二医科大学ハ之ヲ福岡ニ置ク 第一医科大学ヲ京都帝国大学京都医科大学ト称シ第二医科大学ヲ京都帝国大学福岡医科大学ト称ス

朕京都帝国大学官制中改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御爾

◎勅令第六十八号

また、同号には京都医科大学とともに福岡医科大学の陣容が示されている。

勅令第六十八号を以て京都帝国大学講座を公布せれり、其医科大学に於ける講座は左の如し

京都医科大学

- 解剖学 二講座 生理学 一講座
  - 医化学 一講座 病理学 一講座
  - 病理解剖学 二講座
  - 薬物学 一講座 内科学 二講座
  - 婦人科、産科学 一講座 小児科 一講座
  - 外科学 二講座 眼科 一講座
  - 皮膚病学、微生物学 一講座 精神病学 一講座
  - 衛生学 一講座 法医学 一講座
- 福岡医科大学
- 解剖学 一講座 内科学 一講座
  - 外科学 一講座 眼科学 一講座

明治三十六年三月二十四日

内閣総理大臣 伯 爵 桂 太郎

文部 大臣 理学博士 菊池大麓

男 爵

かくして、京都帝国大学福岡医科大学は創設当初、外科(天森治豊・東大明治十二年卒)、内科(熊谷玄旦・東大明治十二年卒)、眼科、解剖の四講座から始まったのである。初代学長兼附属医院長となった元県立福岡病院長の大森治豊(大森自身は東京大学医学部を明治十二年に第一期生として卒業した二十名の内の一人)は、産声をあげたばかりの新設大学をより一層盛り立てていくために、日本全国の高等学校から俊英を呼び集めるとともに、教官として東京大学から新進気鋭の医学者を招聘した。また、東京大学卒の医学徒が将来福岡医科大学の教授となるべく、海外留学のために渡欧している。一例をあげると、同年の医事新聞(第六百三十九号、明治三十六年六月十日)は、東京大学在職中の高山正雄(法医学)、久保猪之吉(耳鼻咽喉科)、旭 憲吉(皮膚病梅毒科)、榎保三郎(精神病学)の四名が福岡医科大学の教授候補として、専門科目修得のため三年間の独逸留学を命ぜられたことを報じている。そして、創設以後次々に赴任してきた教授達は、医学者としても一流であり、多くの先駆的な業績を残すとともに、大森の呼びかけに応じて福岡医科大学に入学した学生を熱意を持って医育したのである。

かくして、明治三十六年に入学した第一回生は、明治四十年十二月十二日に福岡医科大学の卒業の日を迎えた。当日、文部大臣より藤沢後藤の両名の優等生に対して恩賜の賞が伝授された後、大森学長は告辞として熱く以下のごとく述べた。

「文部大臣閣下並ニ諸君

本日本学第一回卒業証書授与式ヲ举行スルニ際シ畏クモ陛下ヨリ優等卒業生ニ恩賜アリ治豊感激ニ耐エズ又閣下並諸君ノ賓臨ヲ辱フシタルハ洵ニ本学ノ光荣ナリ回顧スレバ本学ハ明治三十六年四月ニ創立、同年九月ニ其授業ヲ開始シタリ故ニ歳尚浅ク未ダ設備ノ完キヲ期シ難シト雖モ各教授ノ熱心奮励ニ依リ第一回卒業生ヲ出スニ至レリ茲ニ其勞ヲ謝ス附属医院ハ元福岡県立病院ヨリ建物其他一切ヲ挙ゲテ之ヲ承継シ創立ト同時ニ院務ヲ開始スルコトヲ得タルハ福岡県ニ謝スベキ所トス本学創立後戦局其他ノ事故ニヨリ未ダ開学ノ典礼ヲ举行スルニ暇アラザリキ、今ヤ工事略成リ己ニ第一

回卒業生ヲ出スル至ル、故ニ今日書記官ニ託シ、本学事業概略ヲ閣下並諸君ノ清聴ニ達ス

### 卒業生諸君

諸君ハ実ニ本学第一回ノ卒業生ニシテ其名譽ハ本学創立ト共ニ永ク紀念セラルベク、從ツテ其責任ノ大ナルコトヲ忘ルベカラス惟フニ諸君ガ本学創立ノ際ニ處シ幾多困難ニ屈セズ孜々トシテ研鑽ニ勸メ、本学ノ基礎ヲ堅固ナラシメタルハ後進学生ノ為ニ多トスル所ナリ今ヤ諸君ハ本学規程ノ学科ヲ修了シ各自所期ノ任務ニ就カムトス寔ニ光榮ト謂フベシ、サレド医学ノ發展ハ駸々トシテ底止スル所ヲ知ラズ前途尚遠遠ナリ、諸君男益往邁進斯学ノ攻究ニ力メ、以テ国家ノ須要ニ応ゼムコトヲ期スベシ諸君夫レ旃ヲ勉メヨ

京都帝国大学福岡医科 大森治豊

大学長正五位医学博士

最後に、總代の井上敬義が以下のごとき答辞を述べて式典は終了し、懇親会に移つたのである(この時、参加者が式場に用意された鍋、すなわち「学士鍋」、を賞味したことから、医学部卒業記念式典ならびに同窓会誌を「学士鍋」と呼ぶようになった)。

「明治四十年十二月十二日京都帝国大学福岡医科大学第一回卒業証書授与ノ盛典ヲ挙ゲラレ文部次官閣下ヲ始メ貴紳ノ来臨ヲ辱フシ訓示祝詞ヲ賜フ生等一生ノ面目ト云フベシ回顧スレバ在学四年間事ニ当リ折ニ触レ教授諸先生ノ薰陶誠ニ懇篤ヲ極メタリト雖生等ノ不才其高囑ニ添フヲ得サリシハ深く慚愧ニ堪ヘザル処也今ヤ二十余年ノ学生生活ヲ終ヘ進ンデ既習ノ學術技芸ヲ実地ニ試ミ或ハ更ニ研究ノ地歩ヲ進メ斯界ノ難局ニ赴カントス豈感慨ノ深キモノナカルベケンヤ生等不肖ト雖規程ノ学芸ヲ授ケラレ略医学ノ何タルヲ解ス若夫奮起一番更ニ深遠奧秘ノ学理ヲ闡明シ神驚鬼愕ノ妙技ヲ習得スルヲ思フ無ンバ諸先生ノ薰陶何ニヨリテカ躍動セン生等今回ノ卒業ヲ以テ専門的研究ノ第一歩ト思意ス徒ニ雀躍狂喜スルモノニアラズト雖依リテ前途一線ヲ劃シ真理ノ曙光勇邁進ヲ誘フモノ、如ク眼界頓ニ展開シ来レルノ感アリ

加フルニ生等ハ第一回卒業生トシテ我大学ノ真価ヲ世ニ示サザルベカラザルノ大任ヲ有ス是蓋生等ノ勉 努力ヲ要スル所為メニ渾身ノ血涌キ肉動クラ覚ユ豈安逸拱手徒爾ニ終ルベケンヤ此盛典ニ際シ聊蕪辞ヲ延ベテ高論ニ答フ

卒業生総代 井上敬義

かくて、日本で三番目に創設された福岡医科大学から五十八名の医学士が誕生した。そしてこの第一期生の中から、後に母校の教授になったのが、第一外科の赤岩八郎（昭和二年就任）と第二外科の後藤七郎（大正八年就任）であり、三宅外科に入局した橋本策は、甲状腺の病理学研究から「リンパ腫性甲状腺腫」という病態を明らかにし、その功績から同病は「橋本病」と呼ばれている。

翌明治四十三年（一九一〇年）十二月には勅令第四百四十八号をもって九州帝国大学の設置が、さらに明治四十四年（一九一一年）一月には文部省令第三十六号にて、工科大学の開設が公示された。そして、同年（一九一一年）三月三十一日には勅令第四十五号をもって、京都帝国大学福岡医科大学から九州帝国大学医科大学への所属替えが行われ、福岡医科大学は京都帝国大学から離れて、新しく九州帝国大学の一分科大学として出発したのである。なお、福岡医科大学は九州帝国大学医科大学となるまでの八年間に、三百三十名の卒業生を送り出した。

そして、大正八年（一九一九年）二月七日には、勅令十三号をもって九州帝国大学医科大学から「九州帝国大学医学部」に改称されるに至った。

（九州大学医学部百年史編集委員）